

# 夢や希望の種を育て、 国際社会に貢献したい

東原農産種苗株式会社  
社長 **朴正鎭** さん  
創価大学経営学部卒業

日本で学んだ留学生たちは、その多くが母国の重要な立場で活躍している。韓国で種苗の開発と販売を手がける会社を経営する朴正鎭さんも、そんな一人だ。

朴さんの会社は、ソウルから南へ車で約一時間の龍仁市にある。龍仁市は、近年、ベツドタウンとしても発展が著しいが、もともと農業が盛んで、「白玉米」というブランド米の産地としても知られている。敷地面積約六万六千㎡の広大な土地に建てられた本社ビルと研究農場。周囲には水田やビニールハウスの並ぶ畑、緑豊かな森などが広がる。「私が入力しているのは、一つは都市家庭で手軽に食べられるレタスやチコリなどの健康野菜で、販売量は、毎年伸びています。もう一つが韓国伝統の在来種ホウレンソウです。もともと甘みが強く味が良いと言われていましたが、



私の会社でさらに品種を開発して供給したところ、昨年は在来種ホウレンソウの約七〇%を占めるまでになりました」と朴さん。

ソウル市の中心部で

朴さんが創価大学に入学したのは、前社長である父親の仕事で来日した折、創価大学のキャンパスを見学し、その「平和・文化・教育」をテーマにした建学の精神に感銘して留学を勧めたことから。当

創価大学は、現在、世界四六カ国・地域の二四一大学と交流を行っています。長期・短期を含め年間約七〇〇名の学生が海外を経験、海外からの留学生も年間約三〇〇名が在籍し、キャンパスにはグローバルな雰囲気があふれ、卒業生は、世界各地で幅広く活躍しています。さらに、二〇一四年四月には、国際教養学部が開設されます。

理を作って販売したりしました。文化や言語が違い、国と国との微妙なライバル意識もある留学生がいつしよに一つの事をするのは難しい面もありましたが、学ぶことも多かったです。そうした活動を通じて培った企画力やリーダーシップ、友人たちとの国際的なネットワークは、今の仕事にも大変役に立っています」

生産農家や消費者に満足してもらえる種を開発したいと、韓国国内はもちろん、日本や中国、インドなどの取引先を忙しく飛び回る朴さん。「私が扱っているのは小さな種ですが、みんなの夢や希望がつまっています。それを一つ一つ実現して、国際社会に役立てたいと思います」

小さな種から広がる大きな夢。「創造的人間たれ」という「創価」の精神は、ここにもしっかりと根づいている。



ばく・じよんじん／一九七〇年、韓国・ソウル市生まれ。一九八九年、韓国の養成高等学校を卒業後、創価大学日本語科に入学。一九九四年、同大経営学部卒業。一九九六年、同大学院修士取得。一九九六年〜一九九八年、帰国し兵役に就く。一九九八年、父親の経営する東原農産種苗株に入社。二〇〇二年、同社代表理事、社長に就任。